

## 「いじめ自殺」の社会問題に対するツイッター上の感情分析

大澤 卓也<sup>i</sup>

本論の目的は、「いじめ自殺」に対するツイッターの投稿内容の分析を行い、SNSにおけるクレーム申し立て活動にはいかなる感情が見いだされるか、それらが投稿にどのような影響を与えるのかを明らかにすることにある。「大津いじめ自殺」と「岩手いじめ自殺」の事例に対して感情分析ツールやKH Coderを用いて内容分析を行った。その結果、両事例に関するツイートには、「哀」「喜」「厭」「怒」の感情語が主に含まれていることが明らかになった。これらの感情がどのような文脈で表明されているのかを分析した結果、①「哀」の感情語は、当事者の「哀」を表現する言説の中に集中している②「喜」の感情語は、一方の事例は、加害者側の感情表現に、もう一方は、被害者の感情表現に用いられている③「厭」の感情語は、最も多く析出され、両事例共に学校関係者への批判的な言説の中に集中している④「怒」の感情語は、第三者の「怒」の感情を含む行為や発言を引用したものであり、それらに対する投稿者の見解は、文脈に応じて賛否両論であった。これらの結果から、2つの事例の投稿数の差には主に「喜」と「怒」の感情語が影響していることを明らかにした。

キーワード：「大津いじめ自殺」、「岩手いじめ自殺」、クレーム申し立て活動、ツイッター、感情分析、KH Coder

### 1. はじめに一問題提起—

本論は、「いじめ自殺」の社会問題に対するツイッター<sup>1)</sup>における人々の感情的反応に関して考察を行う。ツイッター分析を行う理由は、SNSにおけるクレーム申し立て活動の特徴を分析するためである。社会問題の定義に関して、スペクターとキツセは「社会問題はなんらかの想定された状態について苦情を述べ、クレームを申し立てる個人やグループの活動である」(Spector & kitsuse, 1977=1990:119)と示している。北澤(2015)は、クレーム申し立て活動が社会問題として判断できる規準を学校・警察等の公的機関がクレーム申し立て活動に加わることで

ある「公共性の獲得」及び「私たち社会(あるいは日本)」の問題への転換という「地域性からの超越」に定めている。従来この役割を果たしたのは主にマス・メディア報道であるが、近年ではSNSの存在を無視できない。SNSの特徴は、①拡散力の違い②情報発信の容易化③批判の可視化④サイバースケードの存在であると山口(2015)が言及する。拡散力と情報発信の容易化は、不特定多数者に情報の交換や共有をもたらした「私たち社会の問題」であるとの認識も容易にした。批判の可視化は、ネット上の人々の考えが社会問題ワーカーや政策形成に影響を与えることを可能にしたといえる。SNSが登場する以前であれば、社会問題における大衆の反応が与える影響と言えば、街宣デモや地元議員の働きかけなどを利用して公的組織の対応を迫る方法が一般的であった。また、SNS登場以前、大衆の反応を確認する方

i 立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程

法は、事件に関する関係各所への抗議電話の内容や報道番組のインタビュー、新聞への投書等に限られており、報道されていない多数者の反応（社会問題への意見や抗議行動への賛否や新聞投書への共感の有無）を確認することは大規模なアンケート調査等を用いない限り困難であった。それに対して、SNS上の反応はSNSの利用者に限定されるとはいえ、基本的に人々の反応は可視化されている。したがって、人々のSNSへの投稿を調査の対象とすることにより、比較的容易に調査が可能となる。特にツイッターは、他のSNSと比べて参加者も多く<sup>2)</sup>、その機能的特性から、人々の反応の調査に最適である。例えば、ある出来事に関してツイートされた総数を調べることにより、その出来事への人々の反応の規模を知ることが可能となろう。更に、ツイッターのリツイート機能<sup>3)</sup>に着眼すれば、人々のいかなる反応がどの程度の人々に共感されているのかという指標を把握することが可能であろう。もちろん、ツイッターにおいて批判的・攻撃的な意見が集中する「炎上」への参加者は、ツイッター利用者のわずか0.5%の数千程度しかおらず大きな社会集団の代表とも思えないとの批判的な指摘もある（田中・山口, 2016）。田中らが調査時に記述した「炎上」の対象は、「ある人の書き込みをきっかけに、多数の人が集まってその人への批判・攻撃が行われること」を指している。また、田代・折田（2012）、平井（2012）や吉野・小山・高田（2018）らの「炎上」の研究の対象も同様にブログやツイッターへの投稿が原因で発生した問題を対象としている。しかし、本論が対象とする事例は、ネット外において発生した事件をマス・メディアが報じ、それに対する批判的・攻撃的ツイートがなされるものであるため、「炎上」の事例とは異なっている。したがって、本論のような特定の事例に対するツイッターへの投稿をクレーム申し立て活動の一種とみなして分析を行うことは、社会学的な価値が十分にあるものと考えられる。

ツイートデータに対して感情分析を行う理由は人々の行動を促す要因として感情が重要なことに関

連している。社会問題において人々の行動を促す感情に関しては、拙論（2013）で義憤や怒りなどの「負の感情」の重要性を指摘した。また、P.W. シンガーとE.T. プルッキング（Singer & Brooking, 2018=2019）は、SNSにおいて「怒り」の感情が、人々の注目を集めること、より速く広範囲に情報を伝達すること、人々の連帯を強固にすることに作用すると「感情」の重要性を指摘している。しかし、拙論及びシンガー等は、「怒り」以外の感情に言及していない。J.H. ターナー（2000=2007）は、人間社会における主要な感情を怒り、恐れ、喜び、哀しみであると指摘している。これらの感情は、社会問題への動員やSNSの集合行動に影響を与えないのだろうか。本論は、いじめに関わる感情を「怒り」だけでなく、それ以外の感情語を含めて、ツイッターの感情構造を明らかにし、それらがいじめの特定の関係への攻撃性に動員されるのかを明らかにする。

## 2. 調査対象となるツイートデータ

調査対象とする「いじめ自殺」の事例の選出には、インターネット上において相対的に多くの人々が関心に向けていたと推察できることを基準とした。そのような人々の関心動向を把握するために、Googleトレンド<sup>4)</sup>を用いて「いじめ」をキーワードとして検索を行った。検索の対象期間は、日本国内でツイッターの運営が始まった2008年1月から2020年1月までの期間に限定した。それらを踏まえた「いじめ」に関する検索動向は、図1のような結果である。

この図1の縦軸は、検索のピークの月である2012年7月を100と捉えて相対的に示されたものである。「いじめ」をキーワードとした検索の2番目、3番目のピークは、それぞれ2019年10月（45）、2015年7月（21）であった。2012年7月は「大津いじめ自殺」の事例、2019年10月は神戸市の小学校教諭の間で生じたいじめの事例、2015年7月は、「岩手いじめ自殺」の事例が、マス・メディアにおいて連日大きく報道された時期であり、それらの事例の影響が「いじめ」

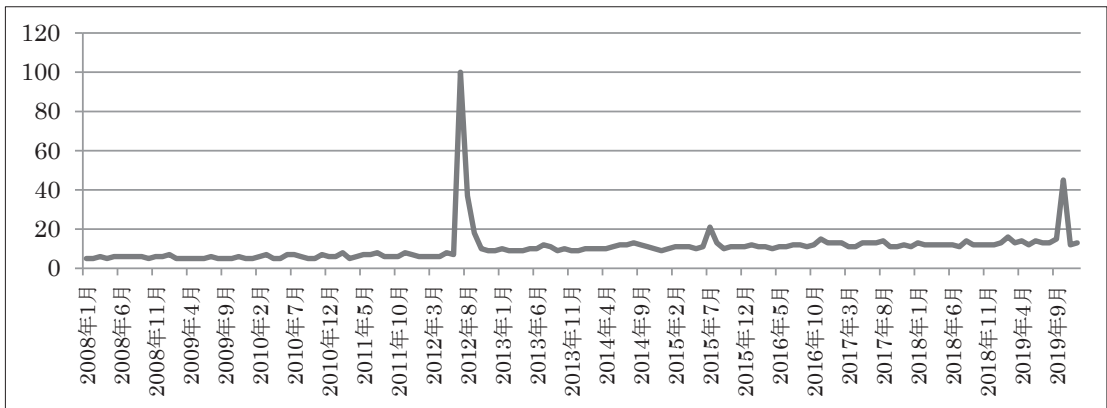


図1 「いじめ」をキーワードとした検索動向

(出所, Googleトレンドより作成)

の検索回数を増加させたと推察できる。もちろん、検索数の観点から神戸市の事例は重要ではあるが、本論は、生徒間における「いじめ自殺」の事例が対象であるため、神戸市の事例は対象とはせず「大津いじめ自殺」と「岩手いじめ自殺」を分析の対象とした。

「いじめ自殺」に関するツイッターへの投稿をテキストデータとして収集するために、ツイッターに備わっている検索機能を用いて抽出を行った。その際、リツイートの記事も含めたツイートをテキストデータとして収集を行った<sup>5)</sup>。「大津いじめ自殺」の事例に関しては、2012年7月4日から同年8月3日までの1ヶ月間の「大津 and いじめ」のキーワード検索を行った<sup>6)</sup>。「岩手いじめ自殺」の事例に関しては、2015年7月7日から同年8月6日までの1ヶ月間の「岩手 and いじめ」のキーワード検索を行った<sup>7)</sup>。また、それらのツイートデータは、全てのツイートを対象とはせず、10回以上リツイートされているデータに限定して抽出を行った。これは、個人によるツイートがクレーム申し立て活動であるといえるためには、そのツイートがある程度は人々の間で共有されていることが必要だからである。また、リツイートされていても、その回数が少ないツイートは、フォロワー(仲間)同士で情報を共有しており、仲間内の問題に留まっている可能性が高い。したがって、

誰にもリツイートされていない独り言のようなツイートや少数者がリツイートしているツイートは、対象とせず、10回以上という制限を加えた。

以上の方法により抽出したツイートデータの感情分析を行うために、まず感情分析ツール ML-Ask を用いた<sup>8)</sup>。ML-Ask は、中村の『感情表現辞典』(1993)に基づき、テキストデータに含まれている各感情語を推定し分類するツールである。『感情語辞典』は、哀、恥、怒、厭、怖、驚、好、昂、安、喜の10種類に分類された感情語を収録している。各感情語の具体例は、「哀」は、悲しい、泣く、哀れ、淋しい、むなしいなどである。「恥」は、恥ずかしい、晴れがましい、赤面などである。「怒」は、立腹、憤る、癪、不機嫌、どなるなどである。「厭」は、嫌、憎い、悔しい、困る、憂鬱、苦しいなどである。「怖」は、こわい、ふるえる、心細いなどである。「驚」は、びっくり、ショック、面くらう、呆然などである。「好」は、愛、恋しい、あこがれる、好き、なつかしいなどである。「昂」は、あせる、いらいら、緊張、興奮、感動などである。「安」は、ほっとする、平然、気楽などである。「喜」は、めでたい、うれしい、満足、楽しい、微笑などである。このツールを利用するにあたり、『感情語辞典』以外にも多くの表現辞書を取り入れている Python 版 ML-Ask<sup>9)</sup> を採用し分析を試みた。なお、ML-Ask を用いた感情分析の結

果に関して、2点の注意点がある。第1に、このツールによる感情分析は、「いじめる」に関する単語が、「厭」の感情語として認識されていたため、それらの結果は意図的に排除した。本論は、「いじめ自殺」の事例を対象として「いじめ」をキーワードとして選考している。したがって、「いじめる」という表現を用いた投稿が増えることは必然的であり、そのような選択によるバイアスを取り除いた。第2に、感情語の分類の集計に関して、1つのツイートに同種の感情語が複数抽出された際も、1回として集計を行った。その理由は、本論の感情分析は、1つのツイートの感情の強度ではなく、いかなる感情的要素が含まれているのかを精査することに重点を置いているからである<sup>10)</sup>。

### 3. 2つの「いじめ自殺」の事例に対する ML-Ask による感情分析

#### (1) 「大津いじめ自殺」の事例に関するツイート分析

##### 「大津いじめ自殺」に関するツイート数の変遷

2012年7月4日から同年8月3日までに10回以上リツイートされた「大津いじめ自殺」の事例に関するツイート総数は、1,807件であった。その期間のツイート数の日次変化を図2に示した。

7月7日の237件のツイートをピークとしてその

数は減少化傾向にあり、8月3日のツイート数は、0件であった。7月7日に投稿されたツイートは、主に京都新聞社がツイートを行った「大津市、遺族にいじめの日時特定要求 中2自殺訴訟」(2012年7月7日、20リツイート)や読売新聞社がツイートを行った「大津中2自殺、本人が担任に『いじめ受ける』」(同日、50リツイート)などの遺族や学校の対応に関するツイート<sup>11)</sup>、「【大津いじめ自殺】『脅して銀行の口座番号を聞き出し、金を取っていた』同級生が証言」(同日、113リツイート)等の加害者たちが遂行してたいじめの具体的内容に対するツイート、そして加害者たち関係者の個人情報に関するツイートであった。減少傾向から一転して、7月10日から11日にかけてツイート数が再び増加傾向を示している。10日は、某タレントが加害者側の個人情報を個人ブログにおいて晒し上げたことへの批判が集中し、それに関連するツイートであった。11日は、「【拡散希望】大津市のいじめの事件(X中学)、学校からしゃべるなって言われてる中メディアにしゃべってくれた子達が学校側に特定され、みせしめに近いことをされているらしい。受験を控えている学年の子達なので内申点などチラつかせている可能性大。学校、教育委員会いい加減にしろ。」(2012年7月11日、4009リツイート)<sup>12)</sup>というツイートに対して多数のリツイートがなされ、それに関連するツイートが原因であった<sup>13)</sup>。7月17日にツイート数が増加し

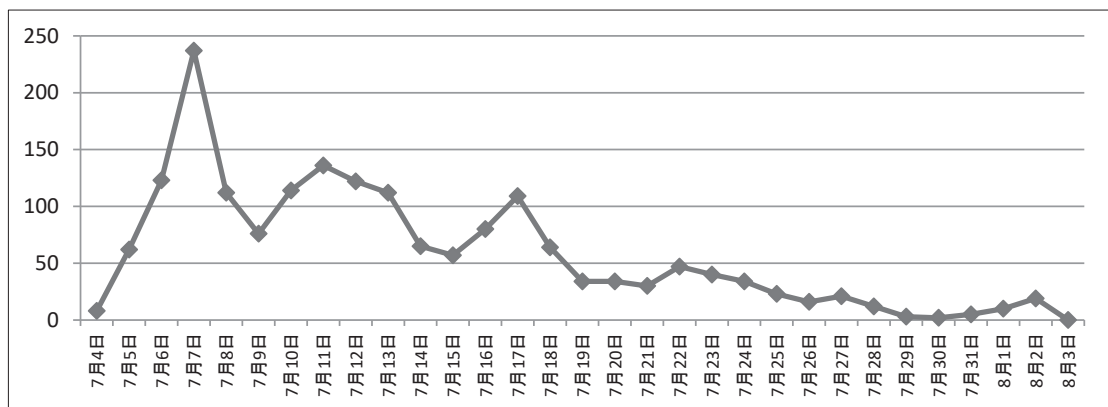


図2 「大津いじめ自殺」の事例に関するツイート数(10リツイート以上)の日次変化

た原因は、「【大津いじめ】加害生徒の母『悪いのは自殺した生徒の親。それなのにうちの子を犯人扱い・・・自殺したらどうするの!?!』」（2012年7月17日, 562ツイート）や「いじめの相談を受けた教師『そんなんでもいいから。君が我慢したらすべて丸く収まる』・・・大津いじめ」（2012年7月17日, 210ツイート）と投稿されたツイートの内容に関連した加害者の関係者や学校の対応に対する批判的ツイートなどであった。

「大津いじめ自殺」の事例に関して、期間内に最も多くツイートされたツイートは、7月8日の「第二次世界大戦で海軍にいた86歳になる私の父は、大津市いじめ自殺ニュースをみて、となりになっていた孫に『人間は誰もみていない時にどれだけ正しい事ができるかが大切なんだ、それが日本人だぞ』と。『はい!』といつになく真剣に返事をする息子の姿をみて、私は父への感謝の気持ちでいっぱいになった。」（2012年7月8日, 14,000ツイート以上）という内容であった<sup>14)</sup>。2番目に多くのツイートがなされたツイートは、7月12日の「大津市のいじめ。自殺現場に加害生徒がいたこと、飛び降りたと思われる時間より後に男子生徒の携帯が使われていた事、衣服に引きずられた跡があること、身体が青アザだらけだったこと、仰向け状態で投げ込まれた様な痕跡。自殺ではなくリンチ殺人であったということはまだ

隠蔽している。」（2012年7月12日, 11,000ツイート以上）という内容であった。

#### 「大津いじめ自殺」に関するツイートの感情分析の結果

このような状況で推移していた「大津いじめ自殺」の事例に関する1,807件のツイートに対してML-Askを用いてそのデータを各感情類型に分類した。各感情類型のツイート総数は、「哀」が132件、「恥」が17件、「怒」が111件、「厭」が307件、「怖」が49件、「驚」が36件、「好」が20件、「昂」が49件、「安」が27件、「喜」が87件であり、「厭」の感情語を含むツイートが特出して多く、「哀」、「怒」、「喜」の感情類型も比較的多いという結果を示した。それらの結果を踏まえて、各感情語を含むツイートの特定の日次への偏りの有無を確認するために、「哀」、「怒」、「厭」、「喜」の感情語を含むツイート数の日次変化を図3に示した。

各感情語を含むツイート数は、図2と同様に右肩下がり形で推移しており、全期間を通じて「厭」の感情語を含むツイートが高い割合で推移していることがわかる。例外として、7月17日は「哀」、22日は「怒」の感情語を含むツイート数が特出している。17日は、先に触れた「いじめの相談を受けた教師『そんなんでもいいから。君が我慢したらすべて丸く収まる』・・・大津いじめ」（2012年7月17日, 210

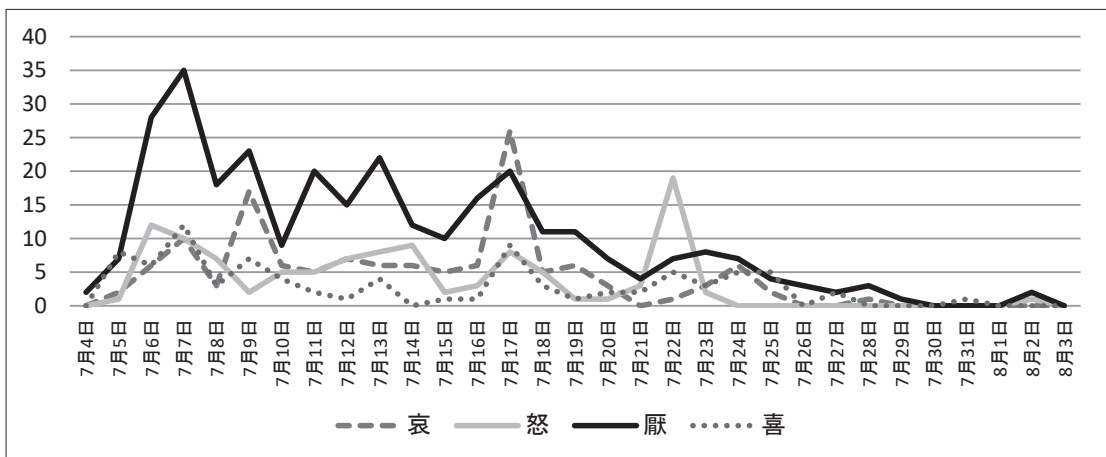


図3 「大津いじめ自殺」の事例に関する各感情語を含むツイートの日次変化

リツイート)の投稿のように「君が我慢したら」という「哀」の感情語を含む報道を引用したツイートが急増の原因である。22日は、毎日新聞社が投稿した【「大津いじめ自殺」学校が週ごとに電話番号変更 批判殺到で】(2012年7月22日, 159リツイート)のツイート(「批判殺到」が「怒」の感情語として抽出されている)を、他のユーザーが引用したことが原因である。

## (2) 「岩手いじめ自殺」の事例に関するツイート分析

### 「岩手いじめ自殺」に関するツイート数の変遷

2015年7月7日から同年8月6日までに10回以上リツイートされた「岩手いじめ自殺」の事例に関するツイート総数は、211件であった。その期間のツイート数の日次変化を、図4に示した。

「岩手いじめ自殺」の事例に関するツイート数は、7月8日をピークとして減少化傾向を示し、一週間後にはツイートがほとんど確認できなくなった。7月8日は、毎日新聞社による「岩手・中2自殺：校長『いじめ知らなかった』」(2015年7月8日, 76リツイート)のツイートやヤフーニュースによる【「中2死亡 ノートに何度もSOS」岩手県の中2男子がいじめを苦しんで自殺したとみられる問題で、生徒は『生活記録ノート』でいじめについて何度も担任に訴え

ていた。】(同日, 232リツイート)のツイートが投稿され、それらの報道を引用して担任や学校側の対応を批判するツイートが多く投稿された。散発的に7月18日と27日にツイート数が増加しているが、これは「岩手いじめ自殺」の事例に関する新たなニュース報道が原因である。18日は、教育社会学者の内田良の発言を取り上げたヤフーニュースの報道や内田自身による7回のツイート投稿、それらに関連したツイートが投稿されている。27日は、ヤフーニュースが【「岩手いじめ 父が加害生徒告訴」岩手県矢巾町で、中2男子がいじめを訴えて自殺した問題で、学校側が父親に調査報告書を手渡した。行われていたいじめの実態は。】(2015年7月27日, 50リツイート)とツイートを投稿しており、そのニュースに関連したツイートが多く投稿されている。

「岩手いじめ自殺」の事例に関して、期間内に最も多くリツイートされたツイートは、7月9日の「岩手のいじめ事件の担任、たしかにあのノート読むとちょっと無責任だけど、この追い詰め方だとたぶん担任が自殺する」(2015年7月9日, 2703リツイート)という内容であった。2番目に多くのリツイートがなされたツイートは、7月8日の「7/5岩手県で中学2年の男子生徒が電車に飛び込み自殺 担任に提出していたノートにいじめや自殺をほのめかす記述をしていた事が判明 7/7 夜の保護者会では生徒

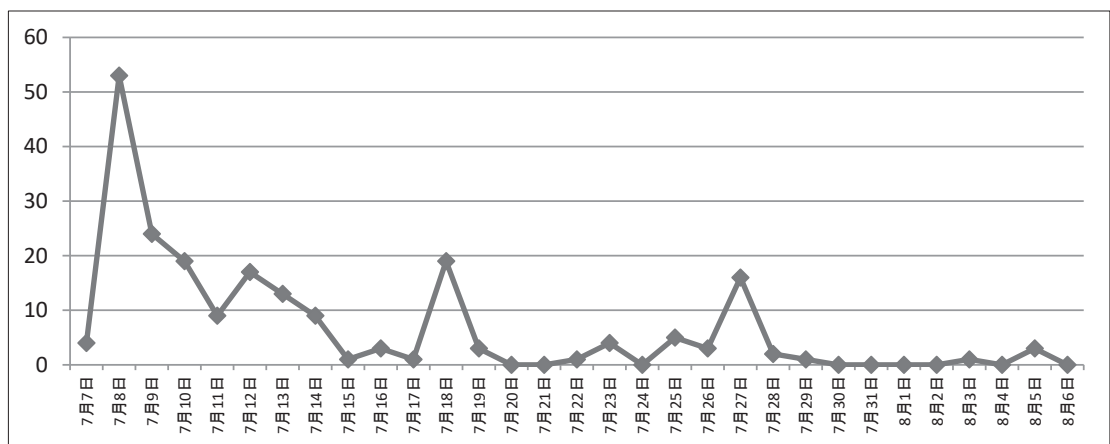


図4 「岩手いじめ自殺」の事例に関するツイート数(10リツイート以上)の日次変化

が死亡したことへの陳謝はなかった 少年は誰かに背中を押され 殺された」（2015年7月8日、1901リツイート）であった。

#### 「岩手いじめ自殺」に関するツイートの感情分析の結果

「大津いじめ自殺」の事例と同様の手続きにより、「岩手いじめ自殺」の事例に関する211件のツイートに対してML-Askを用いてそのデータを各感情類型に分類した。各感情類型のツイート総数は、「哀」が7件、「恥」が4件、「怒」が25件、「厭」が46件、「怖」が6件、「驚」が3件、「好」が2件、「昂」が13件、「安」が3件、「喜」が14件であり、「厭」の感情語を含むツイートが最も多く、「怒」の感情語も比較的多いという結果を示した。「大津いじめ自殺」の事例の結果と比較するために「哀」「怒」「厭」「喜」の感情語を含むツイート数の日次変化を図5に示した。

「大津いじめ自殺」の事例と同様にほとんどの日次において「厭」の感情語を含むツイート数が最も多く投稿されていることがわかる。例外的に7月18日は「厭」の感情語を含むツイートが特出しているが、この原因は内田の投稿したツイートが「厭」の感情語を含んでいるためである。

#### 4. KH Coder による感情語を含むツイートの内容分析

感情語を含むツイートは、いかなる文脈において投稿されているのかを分析するために、テキストマイニングツールである「KH Coder」<sup>15)</sup>を用いた。KH Coderには様々な機能が備わっているが、本論は、テキストデータから自動的に抽出された頻出語から作成される対応分析と共起ネットワークを利用した。データの選定に際して「大津いじめ自殺」の事例において頻出した「厭」「怒」「哀」「喜」の感情語が含まれるツイートデータを分析対象として、「岩手いじめ自殺」の事例にも同様の処理を行い、その結果を示した。

##### (1) 「大津いじめ自殺」の事例における感情語の分析

「大津いじめ自殺」の事例に関して、KH Coderを用いてテキストデータから頻出語を特徴語として取り出し、4種の感情語との対応分析を行った。各感情語と特徴語の関係は、図6の通りである<sup>16)</sup>。

「哀」の感情語を含むツイートは、「我慢」「丸い」「収まる」が最も特徴的な語であり、「相談」「涙」「市長」「生徒」なども特徴語として示されている。これらの特徴語を用いた実際のツイートの中で多くり

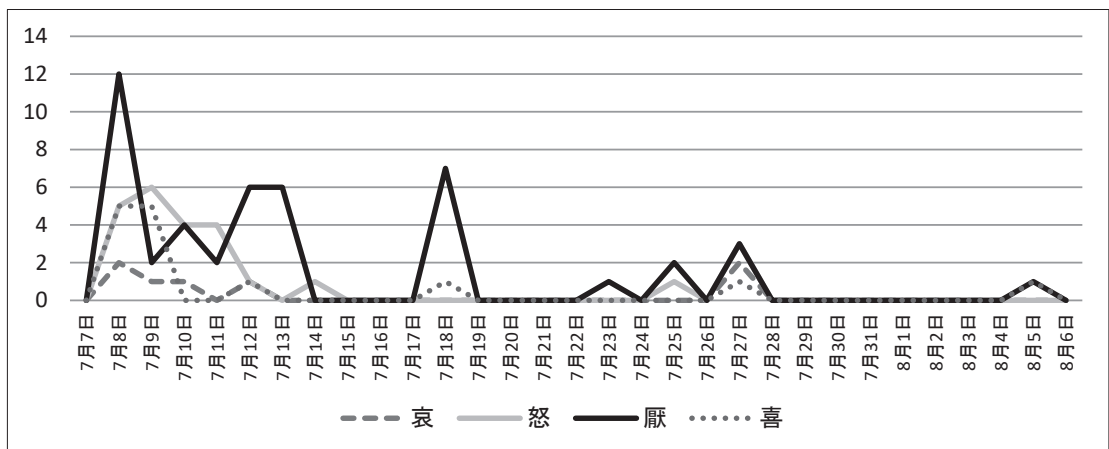


図5 「岩手いじめ自殺」の事例に関する各感情を含むツイートの日次変化

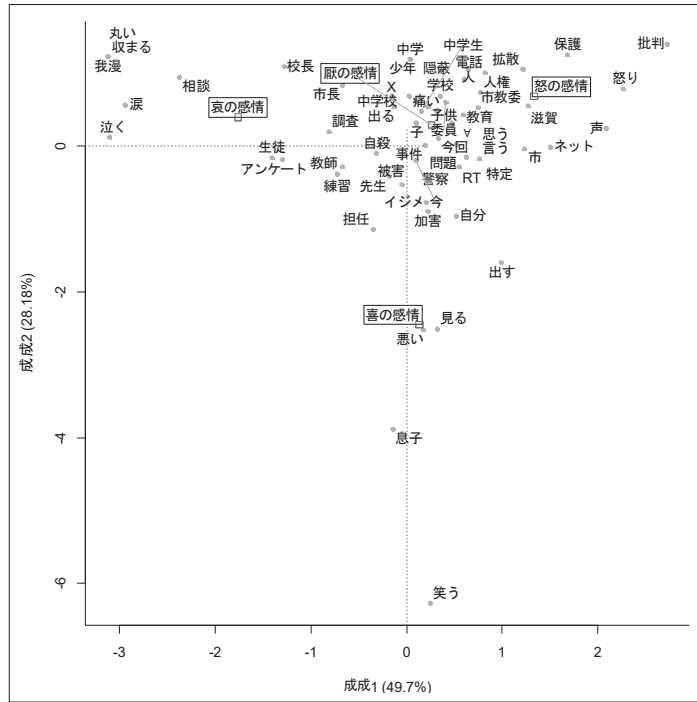


図6 「大津いじめ自殺」に関するツイートの4種の感情語と頻出語の対応分析

(出所, KH Coder より作成)

ツイートが行われた投稿は、「いじめの相談を受けた教師『そんなどうでもいいから。君が我慢したらすべて丸く収まる』・・・大津いじめ」(2012年7月17日, 210リツイート)であった。「君が我慢したらすべて丸く収まる」という担任教師の発言が、多くのユーザーに引用されており、「我慢」という「哀」の感情語に「丸い」「収まる」「相談」の特徴語が付随している。また、「大津いじめ自殺事件で、越直美市長は外部調査委員会を市長直轄にして再調査すると表明。・・・『自殺の練習』などのアンケート回答があったことについては『知っていた』『大変申し訳ない』と涙。」(2012年7月10日, 61リツイート)や「・・・生徒の涙の訴えを無視した教師も同罪だと思います。」(2012年7月15日の157リツイート)などのツイートは、「涙」という「哀」の感情語に「市長」「生徒」という特徴語が付随している。これらの「哀」の感情語を含むツイートは、特定の出来事に対して

投稿者が感情表出を行っているわけではなく、担任教師の行為の説明や市長や生徒の「哀」の感情を伝える投稿である。

「喜」の感情語を含むツイートは、「笑う」が最も特徴的な語であり、「悪い」「見る」「加害」なども特徴語として示されている。これらの語を用いた実際のツイートには「【大津・中2自殺】担任教師『いじめ笑って見てた』『怖くて見て見ぬふり』一方、父親が死後3度も被害届出すも警察は全スルー」(2012年7月5日, 95リツイート), 「・・・【大津・いじめ自殺】『自殺の練習だ』加害生徒ら、笑いながら校舎3階窓から身乗り出させる・・・目撃の女子生徒、初の具体証言」(同年7月20日, 20リツイート), 「【大津いじめ】加害生徒の母『悪いのは自殺した生徒の親。それなのにうちの子を犯人扱い・・・自殺したらどうするの!?!』・・・腹抱えて笑ってやんよw」<sup>17)</sup>(2012年7月17日, 109リツイート)などがみられる。





彼は『障害者のくせに生意気』と言われて殺害されたのだった(2012年7月6日, 412リツイート)という内容を多くのユーザーが引用した投稿であった。しかし、この内容は、「生意気」という言葉が「厭」に感情語として抽出されており、投稿者の感情を示すものでも「大津いじめ自殺」に直接的に関係するものでもない。

また、図7には、「X」とつながりのある「拡散」「アンケート」「担任」などを特徴語としたグループが形成されている。このグループに該当する具体的なツイートは、「大津の中学でのいじめ自殺後、全校でアンケートがとられていたとの報道。無記名でのアンケートに、敢えて記名していじめを指摘した生徒達がいたとも伝えられている。この生徒達は、アンケート後の学校の対応を絶望的な思いでみていただろう。生徒達の勇気と思いを踏みにじるのも大人なのだ。」(2012年7月6日, 216リツイート)や「滋賀県大津市で起きた壮絶すぎるいじめ事件、そのアンケートにあがった内容がひどすぎるのでまとめました。テレビでは規制している内容もふくみました。お手数ですが、どうか拡散してください。」(同日, 371リツイート)などが投稿されている。アンケート調査への学校の対応に関するツイートは、生徒達の「絶望的な思い」という「厭」の感情を投稿者が代弁している。生徒に実施したアンケートの内容に関するツイートは、「ひどすぎる」という投稿者自身の「厭」の感情的言説が示されている。

更に、図7には「校長」とつながりのある「発言」「教育」「委員」などを特徴語としたグループが形成されている。このグループに該当する具体的なツイートは、「最低中の最低の発言。教育関係者としてあり得ない発言。ここまで地に堕ちたんだ、日本の教育は。RT@■■■■ 大津市教育長『学校内でのいじめもあるが、家庭内でも問題があったのでは』<sup>20)</sup>(2012年7月13日, 29リツイート)などが投稿されている。このツイートは、大津市教育長の発言をリツイートという形式で引用を行い、その内容に対して投稿者自身の「最低の発言」という「厭」の感情的

言説が示されている。

その他の「教師」「相談」の特徴語を含むツイートには、「【大津・いじめ】被害生徒が教師に相談するが『そんなのどうでもいい。君が我慢すれば丸く収まる』と突き放す」という言説を引用して、「辟易だが・・・」(2012年7月17日, 35リツイート)や「酷過ぎてねつぞうなんじゃないかと思うようになってきた・・・」(同年7月18日, 86リツイート)と投稿者自身の意見を記述したものが確認できる。これらは、教員の行為に対する投稿者自身の批判的言説であり、「厭」の感情語を含む内容であった。また、「遺族」「特定」の特徴語を含むツイートには、京都新聞社が報じた「大津市、遺族にいじめの日時特定要求中2自殺訴訟」の見出しを引用した投稿が散見される。この見出しの引用を含むツイートには、「最低だな、大津市行政官僚」(2012年7月7日, 39リツイート)や「底の底まで腐りきっているように見える」(2012年7月8日, 159リツイート)など、大津市の対応への投稿者自身の「厭」の感情語を含む批判的言説が付されていた。

次に、「怒」の感情語を含むツイートに関する共起ネットワークを図8に示した<sup>21)</sup>。

図8からは、「怒」の感情語を含むツイートの内容には、いくつかの特徴語によるグループが形成されていることが分かる。「怒」の感情語を含むツイートの最も特徴的な語が「批判」であることを先に示したが(図6参照)、「批判」は、「電話」「学校」「殺到」などの特徴語で構成されるグループと結びついている。このグループに該当する具体的なツイートは、毎日新聞社の公式アカウントによる「大津いじめ自殺:学校が週ごとに電話番号変更 批判殺到し」(2012年7月22日, 159リツイート)という投稿であり、このツイートを引用した他のユーザーによる投稿が多々みられた。具体的には、「本当に腹が立つ」(2012年7月22日, 92リツイート)と電話番号の変更という学校の対応に投稿者自身の「怒」の感情を表出するものであった。また、「抗議電話なんて何も生まないし、迷惑するのは生徒や地域なのにな」(2012

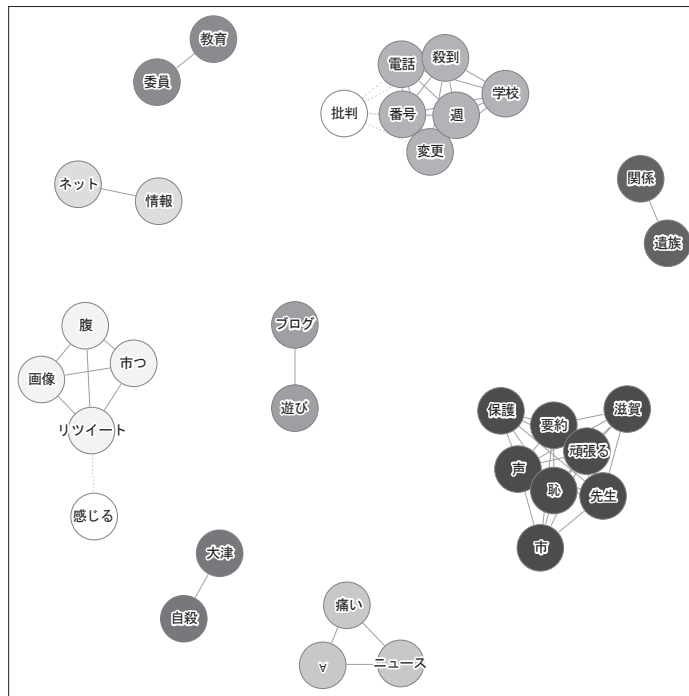


図8 「怒」の感情語を含むツイートの共起ネットワーク

(出所, KH Coder より作成)

年7月22日, 22ツイート)と学校への抗議電話という行為に対する批判的言説も投稿されていた。

更に、「保護」「声」「先生」などで構成されるグループが確認できる。このグループに該当する具体的なツイートは、「【大津・いじめ自殺】『あなた方は滋賀県の恥だ!』保護者会で怒りの声…市教育長『保護者の声を要約すると『先生頑張って』と』(2012年7月13日, 30ツイート)を引用したものが散見される。それらの内容は、「伝説級の馬鹿じゃないの?これで教育長とか滋賀ヤバすぎですわね」(2012年7月13日, 30ツイート)や「どこをどう聞けば『お前ら頑張れよ』となるんだ?教育委員会や学校関連の連中は, どう責任逃れが出来るかだけ」(同年7月14日, 14ツイート)であった。これらのツイートは, 投稿者自身による市教育委員会に対する誹謗中傷や批判的言説であるといえる。

その他のツイートは, 「画像」「腹」「立つ」が含まれる「あなただけに言われたくないと思う人ツイ

ート(・\_\_・)【50RT】大津いじめ自殺 野田首相の画像に腹が立つ『痛みを感じる心を持って欲しい』(2012年7月17日, 226ツイート)である。また, 「ブログ」「遊び」が含まれる「[映画]中川翔子, ブログで大津いじめ問題に言及!『遊びだったというなら同じ目にあってみる』と怒り爆発!」(2012年7月17日, 100ツイート)のツイートが, 複数のユーザーに引用ツイートされている。これらの「怒」の感情語含むツイートは, 投稿者自身による直接的言及, 第三者による間接的な言及の違いはあるが, いじめ問題に対する投稿者達の「怒」の感情を表出しているといえる。

## (2) 「岩手いじめ自殺」の事例における感情語の分析

「岩手いじめ自殺」の事例に関しても KH Coder を用いて特徴語と4種の感情語との対応分析を行いその結果を図9に示した。

それぞれの感情語ごとに特徴語が分散している

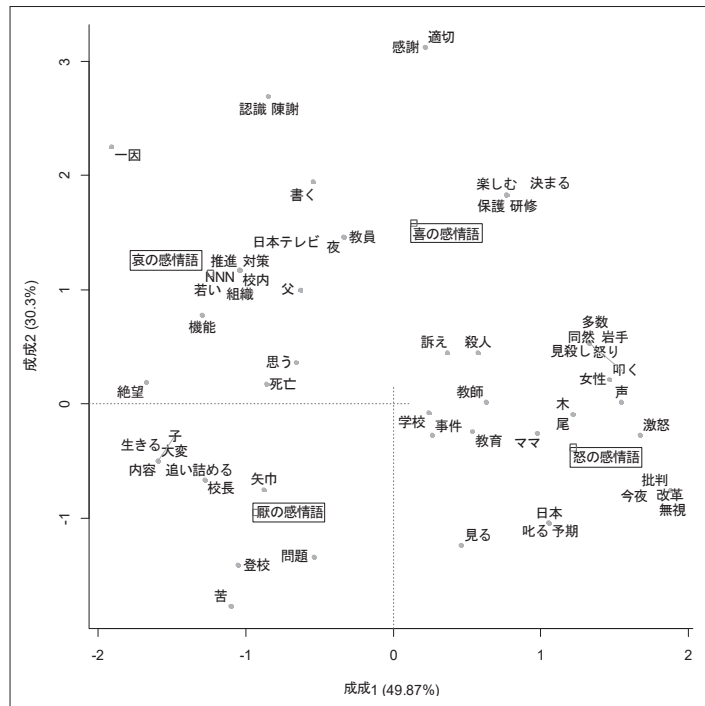


図9 「岩手いじめ自殺」に関するツイートの4種の感情語と頻出語の対応分析

(出所, KH Coder より作成)

ことがわかる。「哀」の感情語を含むツイートの最も特徴的な語は、「一因」である。その具体的なツイートとしてヤフーニュース公式アカウントによる「【中2死亡 いじめ一因と陳謝】岩手県矢巾町で中学2年生が自殺した問題で教育長が会見。『いじめが自殺の一因だったと言わざるを得ない』と述べ陳謝。」(2015年7月10日, 24リツイート)や一般ユーザーによる「いじめが深刻な事態を招きかねない, という認識を持っていなかったのではないかな。／『いじめが自殺の一因』と結論 岩手・中2死亡で報告書:朝日新聞デジタル」(2015年7月27日, 17リツイート)が投稿されている。これらのツイートの「陳謝」や「深刻な事態」という言葉が「哀」の感情語であるが、投稿者自身の感情を示唆するものではない。「一因」以外の特徴語においては、「助けを求められたにもかかわらず、担任教師が逃げた様子がかがえる。自殺した生徒の落胆と絶望を思うと心が痛む。<岩手・

中2自殺>校長『いじめ知らなかった』」(2015年7月8日, 54リツイート)と投稿されており、投稿者自身が「心が痛む」という「哀」の感情を表出している。

「喜」の感情語を含むツイートの最も特徴的な語は、「感謝」と「適切」である。「感謝」の具体的なツイートとして「『もう死ぬ(原文は市ぬ)場所は決まっている』の前に『先生には希望をもらって感謝している』『もう少しがんばってみる』と書かれてるのに触れてないな。写真出てるのに／岩手・中2自殺:校長『いじめ知らなかった』—毎日新聞」(2015年7月8日, 109リツイート)であった。このツイートは、生前に被害者が担任に対して「感謝している」という「喜」の感情を表していたことを伝えるものである。「適切」の具体的なツイートは、「『傷害罪』や『恐喝罪』として認識された方が適切。岩手いじめ自殺 父親が加害者生徒を告訴(日本テレビ系

(NNN) - Yahoo! ニュース」(2015年7月27日, 25リツイート)であった。このツイートは、投稿者が被害者の父親の行動を支持しているという文脈において「喜」の感情語である「適切」が用いられている。しかし、単なる支持を「喜」の感情表出であると捉えることは、些か難しい。その他の特徴語に関して、「楽しむ」「研修」「決まる」は、「尾木ママ、岩手中学生いじめ自殺の学校に激怒『これじゃ生徒殺人学校!』 担任の教師とやりとりしていたノートで死の直前には『もう死ぬ場所は決まっている』などと自殺を示唆していたが、担任からのコメントは『明日からの研修、楽しみましょうね』」(2015年7月8日, 29リツイート)の担任の「楽しみましょう」という表現に「喜」の感情語が用いられている。また、「保護」に関しては保護者説明会において学校側からの「陳謝もなかった」という陳謝を否定する表現を「喜」とML-Askが判断しており、これを「喜」の感情語と判断することは適切ではないだろう。

「厭」の感情語を含むツイートの最も特徴的な語は、「苦」である。その特徴語が用いられたツイートは、「【中2死亡 ノートに何度も SOS】岩手県の中2男子がいじめを苦に自殺したと見られる問題で、生徒は『生活記録ノート』でいじめについて何度も担任に訴えていた。」(2015年7月8日, 232リツイート)というヤフーニュースによる投稿である。この「いじめを苦しめた自殺」という被害者の心情を代弁する表現は、その後も度々ニュース報道として用いられている。また、特徴語の一つである「登校」に関しては、教育学者の内田良が「『いじめゼロ』と『不登校ゼロ』が合わさると、生徒はいじめに苦しみながらそこからの逃げ道も断たれてしまう」(2015年7月18日, 80リツイート)の言説を含んだツイートを複数回行っていることが要因である。内田が投稿したこれらのツイートも、いじめ被害者の感情を代弁するものである。それに対して投稿者の「厭」の感情表出が行われているツイートは、特徴語の一つである「校長」が含まれるものに散見される。それらは、「校長『いじめ知らなかった』』というニュース報道を引

用し、そのことに投稿者の感想を加えるツイートであった。「ため息が出る」(2015年7月8日, 32リツイート)、「自殺した生徒の落胆と絶望を思うと心が痛む」(同日, 38リツイート)や「SOSが反故になっていたのはあまりにも情けない」(同日, 113リツイート)という言説は、それぞれ「厭」の感情語を示している。また、校長の発言に対して「学生にはとんでもない苦しみ」(同日, 45リツイート)という被害者の「厭」の感情を代弁するツイートも投稿されている。

「怒」の感情語を含むツイートの最も特徴的な語は、「無視」「批判」「改革」「今夜」である。「無視」の特徴語を含むツイートは、「【事件】岩手中2自殺 いじめ訴え無視した女性教師に尾木ママも激怒」(2015年7月10日, 23リツイート)に類似した複数の投稿が行われている。しかし、尾木の発言内容を肯定的に引用するツイートは投稿されておらず、「学校側の責任は重いけれど、こういうエキセントリックな非難は今後の改革にはつながらないと思う。」(2015年7月8日, 18リツイート)と否定的な見解を述べる投稿がみられた。「批判」の特徴語を含むツイートは、「岩手中学生いじめ自殺の件。担任の先生が叩かれてるけど、なんか、批判する相手が違うような。。。これで担任の先生がネットやマスコミの批判で死んだら、それも。いじめと変わらないというか、うまく言えないけど、第三者が状況を知らずに判断するのはよくないというか。うまく言えない。」(2015年7月10日, 52リツイート)や「本当は『いい先生』だった? 岩手・中2自殺事件で批判が集まる担任、実際は・・・偏った情報に流されなくてください、本当に問題があったのは担任の指導だけ?」(同年7月11日, 46リツイート)であった。これらのツイートは、尾木の発言のような担任の対応へ痛烈な批判ではなく、担任の行為を擁護するものであった。このような学校側を擁護する「怒」の感情語を含むツイートには、「怒り」「声」を特徴語とした「『見殺しにしたも同然』『ダメ教師』岩手中2自殺事件で学校に怒りの声多数 (URL) … 自殺に追い込んだのは誰?

いじめっ子に矛先を向けず教師と学校を集団で叩くのはいじめとまったく同じ構造ではないか。いじめっ子にしてみりゃこれほど愉快な事はないぞ。」<sup>22)</sup> (2015年7月9日, 223リツイート) がみられる。残りの「今夜」と「改革」の特徴語は、テレビ番組のNews23がツイートを行った「こんばんは。今夜のNEWS23は、▼見過ごされたSOS 岩手中2いじめ自殺か ▼安保 安倍首相のたとえ話「暗い夜道で…」に批判相次ぐ ▼国立大学改革・・・」から抽出されたものであり、「岩手いじめ自殺」の事例とは全く関係がないといえる。

## 5. 考察

以上の分析結果から、2つの事例に関して考察を行う。ツイッターの感情の反応の仕方は、主にいじめにかかわる報道内容や言動にどのように反応するのか、その出来事に関わる人々はいかなる社会的位地や社会関係を占めているのか、さらにそうした反応にはいかなる倫理観や道徳観に基づくのかから捉えることができる。こうした点から考察すると、以下のようなことが明らかになる。

第1に、「哀」の感情語を含む「いじめ自殺」の事例に関するツイートは、当事者たちの「哀」の感情を伝える投稿が多々みられること、一般投稿者は「哀」の感情をあまり表出しませんが、著名人は「哀」の感情を表出することが明らかとなった。「大津いじめ自殺」は「君(被害者)が我慢したら丸く収まる」という言説を引用するツイートが、「岩手いじめ自殺」は「いじめが自殺の一因」という言説を引用するものが、「哀」の感情を最も特徴付ける語を含むものであった。「君が我慢したら丸く収まる」という言説を引用したツイートは全体で15件確認できるが、投稿者自身の「哀」の感情を表出するものは認められなかった。「いじめが自殺の一因」の言説の引用したツイートにおいても、「いじめが深刻な事態を招きかねない、という認識を持っていなかったのではないかと学校関係者たちのいじめ問題に対する認識

不足を指摘するツイートがみられるが、投稿者自身の「哀」の感情を表出するものは認められなかった。「大津いじめ自殺」の事例のその他の特徴語を含むツイートに関しても、大津市長や学校の生徒たちが涙を流す様子を伝える投稿がみられるが、投稿者自身の「哀」の感情語を含むものは認められなかった。その一方で、「岩手いじめ自殺」の事例は、被害者の自殺の出来事にふれて「心が痛む」と投稿者自身の心情を示すツイートがみられた。このような両事例の違いは、「岩手いじめ自殺」の「哀」の感情語を含むツイートの総数が7件であり、投稿者の心情を示す1つのツイートが与える影響が大きいためであるといえる。「大津いじめ自殺」の事例においても特徴語を含まないツイートの中に当時の衆議院議員、著名人や一般投稿者が「痛ましい」などの「哀」の感情語を含む投稿がみられる。しかし、一般投稿者が「哀」の感情を表出したツイートは、133件の投稿中僅か3件であった。これらの点から、「いじめ自殺」の関係者や著名人は「哀」の感情を表出する傾向にあるが、一般投稿者にはその傾向があまりみられないといえる。

第2に、「喜」の感情語を含む「いじめ自殺」の事例に関するツイートの多くは、当事者の「喜」の感情を伝える投稿であることが明らかとなった。「大津いじめ自殺」の事例において「喜」の感情を最も特徴付ける「笑う」という言葉には、2つの文脈から使用されていることが確認できる。一つは、「担任がいじめを笑って見ていた」や加害生徒たちが「笑いながらいじめを行っていた」という当事者の「喜」の態度を示す言説である。それらの言説を用いたツイートには、単にリツイートする投稿や投稿者自身は何らかの意見を記述して引用リツイートを行うものがみられた。もう一つは、加害者の母親の発言に対して「腹抱えて笑ってやる」という投稿者自身の冷笑を示す表現である。このツイート以外に投稿者自身の「喜」の感情を表出するものは認められなかった。「岩手いじめ自殺」において「喜」の感情を最も特徴付ける語は「感謝」であった。「感謝」を含むツ

イートは、被害者のノートの内容である「先生には希望をもらって感謝している」を引用した投稿であった。「大津いじめ自殺」の事例とは異なり、「岩手いじめ自殺」の事例には、加害者や学校関係者達の「喜」の態度を示す言説はみられなかった。

第3に、「厭」の感情語を含む「いじめ自殺の事例」に関するツイートは、10種の感情の中で最も多く析出されたこと、その内容の多くは、投稿者自身の「厭」の感情を表出するものであることが明らかとなった。「大津いじめ自殺」の事例において、投稿者たちは様々な文脈から自身の「厭」の感情を表出していた。「中学校の先生全員がいじめ隠蔽と判明」という言説を引用し、投稿者が「先生全員・・・酷すぎる」とツイートしたことは、学校関係者が行った組織的隠蔽行為に「厭」の感情が向けられていた。「学校内でのいじめもあるが、家庭内でも問題があったのでは」という大津市教育長の言説を引用し、投稿者が「最低中の最低の発言。教育関係者としてあり得ない発言」とツイートしたことは、教育長としての「役割期待」を裏切る発言に「厭」の感情が向けられていた。全校生徒に実施したアンケート調査の内容を踏まえて、投稿者が「内容がひどすぎる」とツイートしたことは、いじめそのものに「厭」の感情が向けられていた。「岩手いじめ自殺」の事例も同様に「校長がいじめを知らなかった」という言説を引用し、投稿者たちが「ため息が出る」「あまりにも情けない」とツイートしたことは、学校が管理責任を十分に果たしていないことに「厭」の感情が向けられていた。このような学校関係者たちに向けられた「厭」の感情は、佐久間（2014）が明らかにしたように、「いじめ隠し」への批判や学校の不作為、いじめを防止する能力不足などの学校責任を問うために示されたといえるであろう。

第4に、「怒」の感情を含む「いじめ自殺の事例」に関するツイートの多くは、第三者の「怒」の感情を含む行為や発言を引用したものであること、それらに対する投稿者の見解は、文脈に応じて賛否両論であることが明らかとなった。「大津いじめ自殺」の

事例において、「週ごとに電話番号変更 批判殺到し」という言説の引用リツイートには、抗議電話を肯定的に捉える投稿も否定的に捉える投稿もみられる。肯定的な投稿は、「本当に腹が立つ」と投稿者自身の「怒」の感情を批判から逃げようとする学校の対応に向けたものであった。否定的な投稿は、「抗議電話なんて何も生まない」と抗議電話そのものを非難するものであった。とはいえ、学校への抗議電話を肯定的に捉えたツイートは92回リツイートされ、否定的に捉えたものは22回リツイートされたことから、ツイッターの多くのユーザーは、抗議電話への学校の対応に「怒」の感情を支持していたと捉えることができよう。「岩手いじめ自殺」の事例は、「いじめ訴え無視した女性教師に尾木ママも激怒」の言説を引用するものであった。尾木の発言を引用する投稿は、その発言を肯定するものではなく、「エキセントリックな発言」という否定的なものがみられた。また、学校関係者への批判に対する引用リツイートには、両事例の差異が認められる。「大津いじめ自殺」の事例は、学校関係者に対する「滋賀県の恥だ」という保護者の怒りの声に準じて、その内容を肯定する投稿が行われていた。それに対して「岩手いじめ自殺」の事例は、担任への怒りの声を肯定する意見は投稿されておらず、「担任の先生が叩かれてるけど、なんか、批判する相手がちがうような」や「本当に問題があったのは担任の指導だけ？」と疑問の声を上げる投稿が散見された。これらのことから、「大津いじめ自殺」の事例は、事件に対する「怒」の感情を助長するようにツイッターの投稿が作用し、「岩手いじめ自殺」の事例は、事件に対する「怒」の感情を中和するようにツイッターの投稿が作用していると解することができる。

このような特徴を示す4つの感情であるが、それぞれの感情同士の関係はいかに捉えるべきであろうか。集合行為と感情の関係について分析を行ったR. コリンズ（2004）は、相互作用儀礼のモデルの中で、集団による儀礼行為の結果として道徳観の違反が義憤を生み出すことを示している。この道徳観は、

集団に支持されている正しさの感覚、社会関係を象徴する神聖な対象（エンブレムや肖像、言葉、ジェスチャーなど）への敬意、それらを侵害する者から守ることである。それらを侵害される行為が、義憤を生じさせるのである。「大津いじめ自殺」の事例において、人々の「怒」の感情は、学校、教育委員会、加害者の行為に向けられている。教員らの責任放棄、学校の隠蔽行為、教育長の失言、いじめの凄惨な行為は、いずれも集団に支持されている正しさの感覚や神聖な対象を侵害する行為である。「厭」の感情語を含むツイートにおいて示した「教育関係者としてあり得ない」、「こんなふざけた奴が校長とはね」の発言は、集団に支持されている正しさの感覚や神聖な対象を侵害する行為の結果、表出された嫌悪感である。それらの嫌悪感から生じた怒りは、先行研究が示したように学校への抗議電話や教育長の襲撃、ツイッターの投稿を促したといえるだろう。つまり、「厭」と「怒」の感情の関係は、「厭」の感情は、道徳観の侵害の判断（嫌悪感を抱くか否か）に寄与し、そのような侵害に対する「怒」の感情に基づく行為（批判、誹謗中傷、抗議など）を促していると解することができるだろう。

残りの「哀」と「喜」の感情はいかに捉えるべきであろうか。A.R. ホックシールド（1983=2000）は、葬儀において笑いの感情が悲しみの感情規則により修正が図られることを示した。「いじめ自殺」の事例も被害者が亡くなっており、「哀」の感情が共有されたムードに水を差すような「喜」の感情は許されない。それ故、担任教師や加害生徒達の「喜」の感情は、「哀」の感情規則から修正の対象となり、彼／彼女らに対して多数の批判が加えられた。「担任教師がいじめを笑って見ていた」ことや「加害生徒達が笑いながら窓から身を乗り出させる」行為には、「喜」の感情が含まれており、「一緒に笑った担任も・・・腹が立つけど・・・笑い話にしてる主犯らには怒りを通り越して絶望する。」（2013年7月7日、189ツイート）と投稿が行われ、多くの人々の共感を得たのである。一方で、「哀」の感情規則を遵守する大津

市長や著名人の「大津市長の涙の謝罪」や「自殺した生徒の絶望を思うと胸が痛む」という投稿には、「喜」の感情が含まれておらず、感情の修正が必要ではないため、それらを否定する投稿はみられない。このような感情規則は、法的に規定されているわけではなく、「人の死は悲しむべきであり、喜んではいけない」という道徳観によって規定されている。上述したように道徳観の侵害は「厭」の感情により判断されるため、「哀」や「喜」の感情の適切さは「厭」の感情を規準としてなされている。悲しむべき状況において、喜びを表出する相手には、人々は嫌悪感を示す（非難する、相手を睨む、その場を離れるなど）であろう。したがって、「大津いじめ自殺」の事例においては、不適切な「喜」の感情が多々みられるため、それらに嫌悪感を抱く人々が批判という多くの怒りの声を上げたと言解することができるだろう。

## 6. 結論

「いじめ自殺」の事例におけるツイッター上のクレーム申し立て活動にはさまざまな感情が見いだされるが、2つの事例分析を通じて「厭」と「哀」の感情には共通の特徴がみられるといえる。一方で、「喜」と「怒」の感情に関しては、両事例とも異なる特徴がみられた。「大津いじめ自殺」は、批判される状況にある当事者達の「喜」の感情が複数確認できるが、「岩手いじめ自殺」にはそのような状況は確認できない。このような当事者達の「喜」の感情は、「厭」や「怒」の感情を増幅させ、ツイッターにおける人々の批判的投稿、即ちクレーム申し立て活動をエスカレートさせるように作用したといえる。また、「大津いじめ自殺」の事例において、当事者に向けられた「怒」の感情は投稿者達の共感を得られたため、クレーム申し立て活動を更にエスカレートさせた。それに対して「岩手いじめ自殺」の事例は、当事者に向けられた「怒」の感情は否定的に捉えられており、彼／彼女らに対する「怒」の感情は、ツイッターにおいて中和状態となりクレーム申し立て活動を活発に



させるに至らなかったといえる。これらのことは、図2と図4において示した2つの事例の投稿の持続性の相違と一致している。「大津いじめ自殺」の事例は、数週間に渡り多くのツイートが共有されていたが、「岩手いじめ自殺」の事例は、一週間程で一度はツイートが共有されなくなった。このようなツイッター投稿にみられる2つの事例の差異は、場違いな「喜」の感情から生じる「厭」と「怒」の感情と「怒」の感情の中和させる投稿の有無が影響を与えたといえるだろう。

これらの事例の検証結果からSNSにおけるクレーム申し立て活動の中で感情は次のような役割を果たすという仮説を提示する。第1に、瞬間的に燃え上がる「怒」の感情よりも、「厭」の感情の方が持続的なクレーム申し立て活動につながる。第2に、クレーム申し立て活動において「怒」の感情が表出された場合、それが極端な反応とみえる場合は、それを中和しようとする動きが発生する。第3に、場違いな「喜」の感情は、「怒」の感情の一時的発生や「厭」の感情の長期的発生を通じてクレーム申し立て活動を活発にさせるのである。これら3つの仮説の検証には、SNSへの膨大な数の投稿データや「いじめ自殺」以外の事例の収集が求められる。それらのデータによる検証を通じて、この仮説の一般性や信頼性は担保されるであろう。このような検証が、今後の課題となる。

#### 注

- 1) ツイッターは、2006年から(日本語への対応は2008年)サービスが開始されたSNSである。ユーザーはツイートと呼ばれる基本的に誰でも閲覧可能な140字以内の文章を投稿することができる。また、他のユーザーのツイートに返信することやリツイート機能を用いてその内容を別のユーザーに拡散することができる。なお、ツイッターの特徴に関して佐々木は、「・・・他のSNSと比較した場合には、既知の友人の少ない『弱いつながりのSNS』ととらえる。また平均的に見れば、情報獲得目的での利用が多いものの、相互フォローに基づく交流もツイッターの利用目的の一つであり、無視できる要素ではない」(北村・佐々木・河井, 2016: 27)と言及している。
- 2) 2020年度の日本におけるSNSの利用率は、ツイッターが38.5%、インスタグラムが35.7%、フェイスブックが21.7%である(ICT総研, 2020)。
- 3) リツイートは、タイムラインに特定のツイート内容を表示させて、自分のフォロワーにそのツイートを知らせる機能である。それ故に、リツイートを行うとその内容は自分以外のツイッターのユーザーの目に触れやすくなるため、特定のツイートを拡散させたい場合に用いられる。
- 4) Google社が、2008年よりサービスの提供を開始したツールである。キーワードやトピックの検索回数のトレンドを確認することができる。GoogleトレンドのURLは<https://trends.google.co.jp/trends/?geo=JP>である。
- 5) データの取得は2020年7月15日に実施した。なお、ツイッターには自動更新機能が備わっているため、オフライン環境下でデータの収集を行った。
- 6) 2012年7月4日をデータ収集の起点とした理由は、拙論(2013)において示したように新聞報道の過熱化がその日を境にみられるためである。
- 7) 2015年7月7日をデータ収集の起点とした理由は、同日に毎日新聞社のアカウントが「岩手・中2死亡：いじめ自殺か 担任への提出ノートに記述」とツイッターを行い、「岩手いじめ自殺」の事件を世間に周知させたからである。新聞紙上においても毎日新聞社は、7月7日の東京版の夕刊において「いじめ自殺? : 中2, 担任あてノートに記述」と見出しを掲げて報じている。朝日新聞社は7月7日の夕刊の岩手県面において「中2, 列車にはねられ死亡 JR矢幅駅, 飛び込み自殺か」との見出しを掲げ、翌7月8日に、朝日新聞社の全国面に「中2, 列車にはねられ死亡 JR矢幅駅, 飛び込み自殺か」と見出しを掲げて報じている。読売新聞社は、7月7日の東京版の夕刊において「中2死亡 いじめ『毎日のように』同級生証言『特定グループが』」の見出しを掲げて報じている。
- 8) 本論におけるツイート分析およびML-Askによる感情分析は、三浦・鳥海・小森・松村・平石

- (2014) や鳥海・榊・吉 (2020) による手法を参考に行った。
- 9) このツールは、<https://github.com/ikegami-yukino/pymlask>において無償提供されている。なお、プログラムの利用環境は、Windows10 64bit, MeCab 0.996, Python 3.6.5 である。
- 10) 例えば、「大津いじめ自殺事件、一緒に笑った担任も、子の名前が出たアンケート結果もみ消した主犯の親のPTA会長も、三度の被害届をうやむやにした主犯の祖父の県警OBも腹立つけど、死後も被害者の写真に穴を開け『死体探し面白かった』と自慢して笑い話にしてる主犯らには怒りを乗り越えて絶望する。」というツイートデータをML-Askにより分析を行うと、「哀」の感情語が1、「怒」の感情語が1、「厭」の感情語が1、「喜」の感情語が1というデータを自動的に抽出することができる。
- 11) 学校側の対応への批判を行ったタレントのツイートは、464回リツイートされている。
- 12) 実際のツイートは、学校名が記載されていたが、個人情報保護の観点からXの表記に変更した。以下においても、政治家やタレントなどを除く個人名やURL、アカウント名は匿名表記に修正を施した。
- 13) 7月10日に毎日新聞社が行った「いじめ自殺のあった大津市の中学に、『いじめに関わった生徒と教師は謝罪しろ。さもないと爆破する』との手紙が届き、学校は臨時休校が決まりました」のツイートが461回リツイートされており、このニュースに対しての人々の関心が高かったと考えられるが、このような爆破予告に関するツイートはあまりなされていない。
- 14) ツイッターのリツイート回数は1万件を超えると千の位の単位までしか表記されないため、このような記述となった。
- 15) このツールは、<https://kxhcoder.net/>において無償提供されている。なお、本論は、旧バージョンのKH Coder2を利用した。
- 16) 事例の現場となった中学校名はXの表記に修正を施した。
- 17) 文末の「w」は笑いを示すネットスラングである。
- 18) 本論の共起ネットワークは「比較的強くお互いに結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを行い、その結果を色分けによって示す」(樋口, 2014: 160) 媒介性に基づくサブグラフ検出を用いた。
- 19) 図6と同様に事例の現場である中学校名をXと表記した。
- 20) 元データは、ユーザー名が記載されていたため、■■■の伏せ字として表記した。また、リツイートの方法には、リツイートボタンをクリックして行う公式リツイートと「RT@引用元のユーザー名, 引用するツイート」と表記する非公式リツイートがある。
- 21) ツイートには加害者の実名が記載されていたため、「A」の表記へと修正し共起ネットワークの作成を行った。
- 22) 原文の誤字を修正。

#### 文献

- Collins, R. 2004 *Interaction Ritual Chain*, Princeton University Press
- 樋口耕一, 2014『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 平井智尚, 2012「なぜウェブで炎上が発生するのか—日本のウェブ文化をてがかりとして」『情報通信学会誌』29(4): 61-71
- Hochschild, A. R. (1983). *The Managed Heart: Commercialisation of Human Feeling*. Berkeley: University of California Press=2000.『管理される心—感情が商品になるとき』世界思想社
- 北村智・佐々木裕一・河井大介, 2016『ツイッターの心理学』誠信書房
- 北澤毅, 2015『いじめ自殺の社会学』世界思想社
- 三浦麻子・鳥海不二夫・小森政嗣・松村真宏・平石界, 2016「ソーシャルメディアにおける災害情報の伝播と感情:東日本大震災に際する事例」『人工知能学会論文誌』Vol.31 No.1: p.NFC-A
- 中村明, 1993『感情表現辞典』東京堂出版
- 大澤卓也, 2013「社会問題に対する社会的反作用のエスカレーションする過程分析」『立命館大学産業社会論集』第49巻3号: 113-131

- 佐久間正弘, 2014 「“いじめ” 事件における学校責任の社会的構築:—新聞報道を中心に検討して—」『社会学年報』 43(0), 119-129
- Singer, P. W. & Brooking E. T. 2018. *Like war the weaponization of social media*. Eamon Dolan=2019. 小林由香利訳 『「いいね！」 戦争—兵器化するソーシャルメディア』 NHK出版
- Spector, M. & Kitsuse, J. I. 1977. *Constructing Social Problems*, Menlo Park=1990. 村上直之・中河伸俊・鮎川潤訳 『社会問題の構築』 マルジュ社
- 田中辰雄・山口真一, 2016 『ネット炎上の研究 誰がおり、どう対処するのか』 頸草書房
- 田代光輝・折田明子, 2012 「ネット炎上の発生過程と収束過程に関する一考察～不具合に対する嫌がらせと決着による収束～」『研究報告電子化知的財産・社会基盤』 57(6) : 1-6
- 鳥海不二夫, 榎剛史, 吉田光男, 2020 「ソーシャルメディアを用いた新型コロナ禍における感情変化の分析」『人工知能学会論文誌速報論文』 35巻 4号: 1-7
- Turner, Jonathan H. 2000. *On the Origins of Human Emotions*. Stanford: Stanford University Press=2007. 正岡寛司訳 『感情の起源』 明石書店
- 山口真一, 2015 「ネット炎上の実態と政策的対応の考察—実証分析から見る社会的影響と名誉毀損罪・制限的本人確認制度・インターネットリテラシー教育のあり方—」『情報通信政策レビュー』 第11号 : 52-74
- 吉野ヒロ子・小山晋一・高田倫子, 2018 「ネット『炎上』における情報・感情拡散の特徴—Twitterへの投稿データの内容から—」 広報研究, 第22号 : 60-78

#### 資料

- ICT 総研ホームページ (2020) 「2020年度 SNS 利用動向に関する調査」 <https://ictr.co.jp/report/20200729.html> (最終検索日 : 2021年 2月 1日)

## An Analysis of Emotion on Twitter: A case study in suicide due to bullying

OSAWA Takuya<sup>i</sup>

**Abstract** : The purpose of this paper is to analyze the content of Twitter posts on “suicide due to bullying” and reveal what emotions relate to the “claim-making activity” by SNS users and how they affect these posts. To provide that data, we studied the cases of “Suicide due to bullying in Otsu” and “Suicide due to bullying in Iwate.” In order to carry out emotional analysis on these Twitter posts, we used an emotional analysis tool and “KH Coder.” As a result, we found that tweets about these two cases mainly contained emotional words, such as “sorrow,” “joy,” “dislike,” and “anger.” We also analyzed the context in which these emotions are expressed, and found the following four points. (1) The emotional words related to “sorrow,” such as tears, apology, patience, and so on, concentrated on the emotional expression of the parties of the incident. (2) The emotional words associated with “joy,” such as smile, laugh, appreciation, and so on, above all appeared in the emotional expression of assailants, teacher and victim. One case was used in the emotional expression of assailants and teacher, the other case in that of the victim. (3) The emotional words associated with “dislike,” such as terrible, the worst, desperate, and so on, were the most used of the four words, and concentrated on the critical discourse against school officials in both cases. (4) The emotional words associated with “anger,” such as outburst, get angry, criticism, and so on, were described by the third parties, such as politician, entertainer, and Twitter user. In one case, Twitter users sympathized with the emotions of the third parties, in the other case they did not. From these results, it was found that the posts in the two cases were mainly influenced by the emotive words “joy” and “anger.”

**Keywords** : “Suicide due to bullying in Otsu,” “Suicide due to bullying in Iwate,” Claim-making activity, Twitter, Emotional analysis, KH Coder

---

i Doctoral Program, Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University